

## 実技講習会内容について

◆6月2日に実施しました実技講習会「イメージ」表現の内容は以下の通りです。

各教室にてパワーポイントにて画面を表示しながら解説しました。

◆資料を添付しましたのでご活用下さい(添付の都合上、配付資料の大きさは変更しております)。

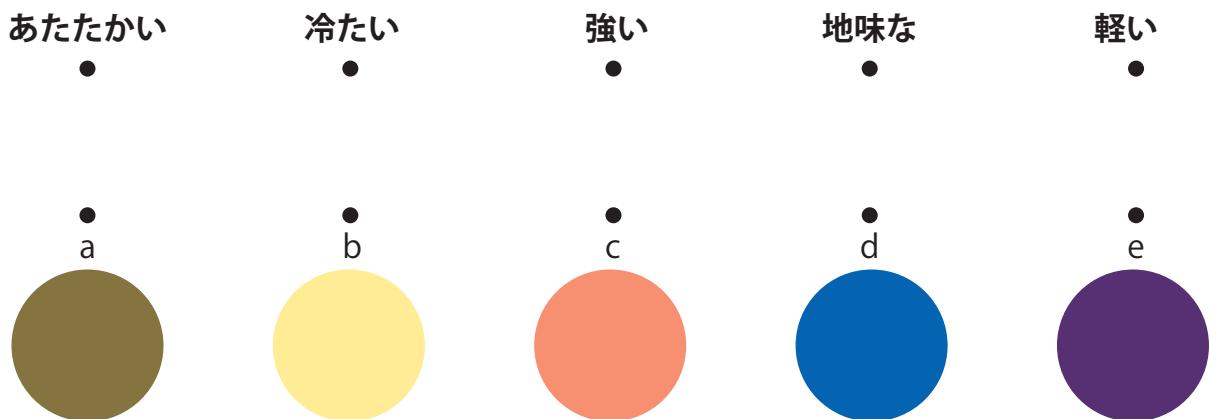
	説明内容・作業	配布資料
1.色の魅力	色彩の役割、色の持つ性格について、絵画作品を参照しながらの解説 カラーワークシートでの確認	カラーワークシート
2.アクリルガッシュについて	アクリルガッシュの絵の具としての特色 使用上の注意点 表現方法について、教員実演による説明	アクリルガッシュの使い方
3.発想の展開	発想展開方法の一つとして、イメージマップ 活用について紹介し、ワークシートを用いて 今回のテーマに沿って発想と展開	イメージマップワークシート 課題用紙
4.構図の工夫	視点によるものの見え方の変化や 画面の中での奥行き表現などを 絵画作品を表示して説明	
5.制作	B4画用紙に下書きの後、絵の具で制作 (講習ではポスターカラーでも良いこととしています)	
6.まとめ	今後の学習の進め方について説明	今後の学習の進め方

◆1年生、2年生に向けては、初步として「絵の具の混色」を指導しています。

また、モチーフのみからの発想とし、イメージマップは使わずに様々なスケッチからの発想としました。

# 色彩の性格について考えてみよう。

■言葉のイメージに近いと感じる色彩を線で結んでみましょう



■これはどうでしょう？

派手な	まとまりのある	可愛らしい	重い
●	●	●	●



■色彩によって様々な印象が生まれることがわかりますね。

ではもう少し複雑なイメージについても考えてみましょう。

悲しみ	理想	恐怖	喜び
●	●	●	●



色彩は自由な表現ですが、私たちは様々な体験を通じて、色に共通して感じる印象を持つことがあります。また色は組み合わせによっても、その印象が変化します。こうした色の特徴を知り、上手に利用することができれば、より的確に自分の表現したいことを見る人に伝えることができますね。自分の中にある世界をさまざまな色彩を用いて豊かに表現してみましょう。

# アクリルガッシュについて

## <アクリルガッシュの特徴>

- ・不透明な水彩絵の具
- ・乾燥すると水に溶けない
- ・混色は他の水彩絵の具と同様、自由に混ぜることができる

### ●メリット

- 乾燥が早く、乾くと水に溶けない → 塗り重ねができる  
様々な表現方法が可能 → 水の量を調整することで様々な表現が可能  
(透明水彩絵の具のような扱い方も可能)

### ●デメリット

- 乾燥が早く、乾くと水に溶けない → 絵の具が筆やパレットについたまま放置すると絵の具が取れなくなる

## <取り扱いの注意>

- ・使った筆はすぐに洗う
- ・紙パレットを使う方法もあります
- ・パレットには必要な分だけ絵の具を出す
- ・絵の具のフタはしっかりとしめる
- ・筆洗は色のにごりを防ぐため大きめのものを使用する方がよい

## <筆について>

筆には、たくさんの種類がありますが、「丸筆」「平筆」サイズは、大・中・小あると便利です。  
色を付ける面積に合わせて太い筆～細い筆まで使いわけましょう！

## 「イメージ表現」

### 実技講習会

次の言葉とモチーフからイメージすることをアクリルガッシュを使って画面に表現してください。  
なお、モチーフは画面の中に入れてください。色や大きさ、数などは自由です。

**言葉:「冒険」 モチーフ:「さいころになっている箱」**

**画用紙: B4画用紙 横位置 全面**

塗り残すことなく描いてください。

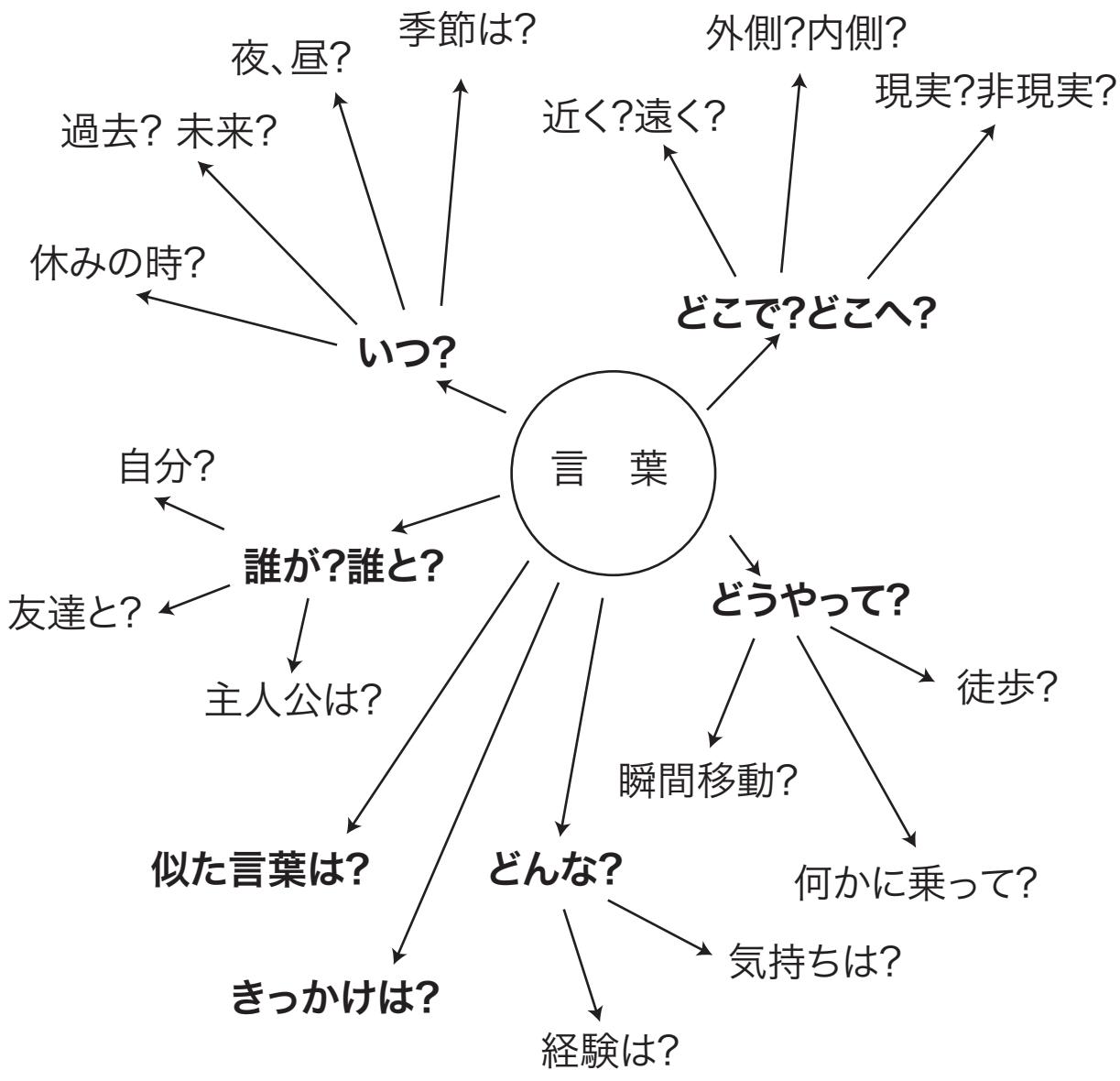
画用紙の白い部分は残さないようにしましょう(今日は完成しなくても構いません)。

**使用絵の具:** アクリルガッシュまたはポスターカラーなど今日持つて来ている絵の具で。

(適性検査はアクリルガッシュの12色または18色セットです。)

★講習終了後の講評会で、希望すればできあがった作品の講評を受けることができます。

## ■「言葉」からイメージを広げるために



## ■イメージマップから画面構成の要素を抜き出そう

モチーフ「                」	言葉「                」
登場する人物や物は?	
どんな場所、どんな世界? 時間や季節は?	
どんな場面、設定? 色で表すとすれば?	

# 学習の進め方

## ◆色について

- ・画集などを見て、きれいな絵だなと思ったら、どんな色が使われているか考えてみよう。
- ・絵の具を混ぜて様々な色を作つてみよう。
- ・色彩豊かな絵を、部分でもいいから模写してみよう。

## ◆発想の展開

- ・いろんな言葉やモチーフをもとにワークシートを使って思い浮かぶ言葉を次々と書き出してみよう。
- ・書き出した言葉をいくつか組み合わせて、絵にしてみよう。  
    例えば 言葉…「思い出」「夏」「情熱」「旅」「変身」  
    例えば モチーフ…「風船」「マグカップ」「ボタン」「めがね」「本」
- ・画集や絵本などを見て、作者の意図やイメージの工夫について考えてみよう。

## ◆構図の工夫

- ・ものの見方を変えて、一つのモチーフをいろんな角度からスケッチしよう。
- ・大きく拡大してみたり、上から見たり下から見たり、中に入ってみたりして描き方の工夫してみよう。

## ◆いろんな素材を集めておこう

- ・身の回りの様々なものや風景、人物などたくさんスケッチしておこう。
- ・雑誌やチラシ、古本、いろんな写真やイラストを切り取って集めたり、本から写してみたり、「アイデア帳」を作つておこう。